郊外化農村における非農家の属性と農業に対する意識

—岐阜県揖斐郡大野町における主婦アンケートより—

中　川　秀　一

1．はじめに

先進国における都市化は、多くの場合都市域の拡大をともなって進行した。その過程で生じる農村地域社会の変動は様々な観点から論じられてきた。そのひとつは、農村が郊外化していく過程で、農村空間に新たに転入してくる住民と、従来から農村地域に居住する人々の間に生じるコンフリクトの問題であった（パッショーン、1983）。また、その論点のひとつは農村環境の開発と保全をめぐって生じる新たな事態をめぐる混乱によるものであり、農業生産あるいは農村的生活様式と都市的生活様式との差異がもたらす住民間の対立も生じている。こうした問題は農業生産—農村環境の保全—農村的生活様式と新規居住—農村開発—都市的生活様式の二項対立の図式では捉えられない。農業の危機を背景に、農業に従事してきた住民が雇用の拡大や一時的な所得を獲得するために開発を要求するといったこともみられるからである。特にアングロサクソン諸国では、都市住民によって、「農村」は一種の理念、理想化されて捉えられる傾向が強くみられ、ときに開発にともなって都市部から農村へ転入してきた新規住民が農村環境の保全を要求することもままみられる。こうした理念化され「理想化された農村（the countryside ideal）」(Bunce, 1994) 像が農村地域の再構築に少なからぬ影響を与えてきている。

わが国においても、郊外化する農村社会変動に関する研究は様々な領域で行われてきた（高橋、1997）。さらに、近年は、農村性（Rurality）が農村をあらたに形成していく鍵を握っているとみられ、「農村」に関するイメージからアプローチする研究のフレームワークも提示されてきている（高橋　1998, 1999）。

本稿は、そうしたフレームワークを年頭におきつつ、郊外化しつつある農村社会の変動に内在する住民の実態に即して明らかにするための試行的かつ実証的調査報告である。具体的には、農村部に居住する「非農家」に対する属性、農業との関係性、農業・農村に対する意識に関するアンケート調査の結果を整理した。

2．本調査の目的と方法

1）調査の目的

本調査は、岐阜県揖斐郡大野町農業整備開発構想策定に向けて設置された大野町農業整備開発構想検討委員会の調査研究活動として行われた。本委員会は、「農業の振興及び優良農地の保全を図り、将来の（大野町の）農業像を明らかにする」(大野町農業整備開発構想策定に関する検討委員会設置要綱による。ただし、カッコ内は筆者による）ことを目的とし、「農地を主体とした土地利用計画に関すること」などを検討事項としている。つまり、農業振興を基本とした農業者側からの土地利用計画を提示することを目的とした委員会である。しかし、大野町は岐阜県の県庁所在地である岐阜市と県内随一の工業都市である大垣市との間に位置し、また東海北陸自動車道の延伸にともなう大野・神戸インターチェンジが建設されることとなっており、今後、住宅建設や新規の企業立地、さらには近隣市町村で急速に進んでいる郊外型大型店の立地が見込まれている。むしろ本調査は、後継者難や減反政策などの農業経営の持続が困難な中で、いかに開発と農地の保全との折り合いを付け得るかを検討するため、また、非農家と農家及び農家間の利害調整を図るための資料を提示することが主眼である。したがって、本調

査に先行して農家調査が行われており、本調査の一部には農家調査と比較対照し得るよう統一された設問項目が設けられている。

そこで、非農家を対象とする本調査では、まず、都市部の郊外にあり、郊外化していく過程にある農村地域における農家ではない人々を、「非農家」としてひとまとめに捉えられえるかどうかを検証した。ここでは被調査者である非農家の属性について、仕事、居住及び生活行動に関する調査項目を含め、さらに本調査の全体的な目的に鑑み、農業との関係性についても重点的に調査した。

つまり、まず第一に本町内の「非農家」とはどのような人々であるのかについて、農業者側からも一定の理解をするための資料を提示すること、第二に、そのような人々がこれまでに農業（あるいは農村）とどのような関わりを経験してきた人々であるのかを示すこと、そして第三に、そのような人々が大野町の農業（あるいは農村）に対してどのような意識をもっているかを明らかにすることを本調査のねらいとした。

2）対象地域の選定と調査方法

調査対象集落の選定にあたって、農業センサス集落カードを用いて、非農家率、専業・兼業別農家率、兼業の種類（自営兼業・勤務兼業）から町内各農業集落を類型化した(図－1、2)。

その結果、非農家率が高い集落で、自営兼業を中心とする集落及び勤務兼業を中心とする集落の中からそれぞれ稲畑、本庄集落を選定した。両集落の非農家戸数はそれぞれ約100戸であり、比較検討する上での共通性が高い点も勘案した。稲畑集落は農家・非農家が混在する集落であるが、本庄集落の非農家は本庄西団地のものであり、住民自治組織も本庄西区として独立している（以下、本庄西)。

調査対象者は世帯の主婦（有職者を含む）とした。世帯での家事労働（育児、介護、その他の家事一般）の主たる担い手であり、自宅及び町内の滞在時間が一般的に長く、町内の居住環境と生活諸条件に対する意識が最も高い層と考えたためである。

調査は、2000年11月末に調査票を各区の代表者に依頼して配布した。その後約10日間で、各区の代表者を通じて回収を終えた。調査票は無記名とし、8つの問、36項目について回答を求めた。設問は被調査者の属性と大野町内活動への参加、農業との関係性、大野町の将来に関する意識に分かれている。ここでは設問の内容に即して調査結果について整理していきたい。

3．対象者の属性

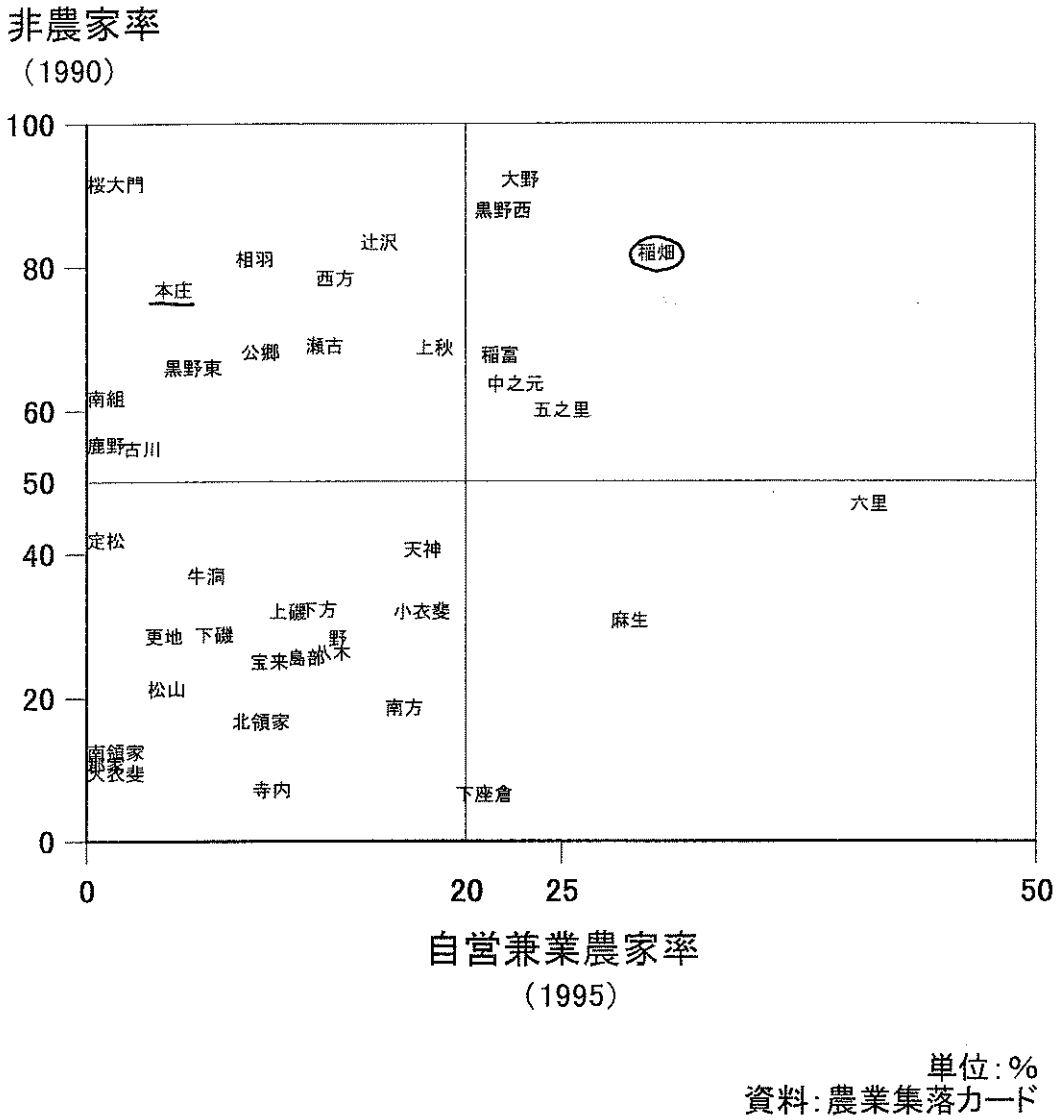
調査回答者数は、稲畑で97名、本庄西で88名であった。本庄西で1名が回収できなかったほかは、配布者数に対してほぼ全数の回答を得られた。

1）年齢・仕事

年齢　回答者の年齢層は（図－3)、全体では40歳代が最も多く、33.2%（61名）を占めている。ついで30歳代までが28.8%（53名)、40歳代が33.2%（61名)、50歳代が20.7%（38名)、60歳代が17.4%（32名）となっている。稲畑と本庄西とでは40歳代と50歳代の比率に差異がみられ、稲畑の方が50歳代に占める割合が大きく(25.8%、25名)、本庄西では40歳代の占める割合が大きい（41.4%、36名)。これは本庄西の場合、岐阜県住宅公社が造成した団地であり、分譲時期（1985年頃）に一戸建てを購入する年齢層が集中的に移住してきたことによる影響とみられる。

夫の仕事　まず、回答者の夫の仕事についてみてみよう（表－1)。60歳代以上について稲畑における自営業の比率が高い（61.5%）ほかは、自営業と恒常的勤務との間に大きな差異が認められない。恒常的勤務については、会社員のほかに、公務員、教員などがみられるが、全般的に企業での勤務が主となっており、年齢の低い層ほどその傾向が強い。特に稲畑でその傾向がみられる。

本人の仕事　本人の仕事については（表－2)、全体で65.2%（120名）が何らかの仕事をしており、特に40～50歳代にかけては8割近く



単位：%
資料：農業集落カード

図－1　自営兼業率からみた集落分布

表－1　夫の仕事について

	年代層	総数	有効数	有効率	自営業	会社員	公務員	教員	パート	ほか
本庄西	30歳代まで	24	23	95.8	26.1	65.2	4.3	0.0	0.0	4.3
	40歳代	36	34	94.4	17.6	52.9	23.5	2.9	0.0	2.9
	50歳代	13	10	76.9	30.0	50.0	10.0	10.0	0.0	0.0
	60歳代以上	14	9	64.3	33.3	11.1	0.0	0.0	11.1	44.4
	計	87	76	87.4	23.7	51.3	13.2	2.6	1.3	7.9
稲畑	30歳代まで	29	29	100.0	13.8	86.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	25	24	96.0	33.3	62.5	4.2	0.0	0.0	0.0
	50歳代	25	21	84.0	28.6	47.6	14.3	0.0	0.0	9.5
	60歳代以上	18	13	72.2	61.5	30.8	0.0	0.0	0.0	7.7
	計	97	87	89.7	29.9	62.1	4.6	0.0	0.0	3.4
	総計	184	163	88.6	27.0	57.1	8.6	1.2	0.6	5.5

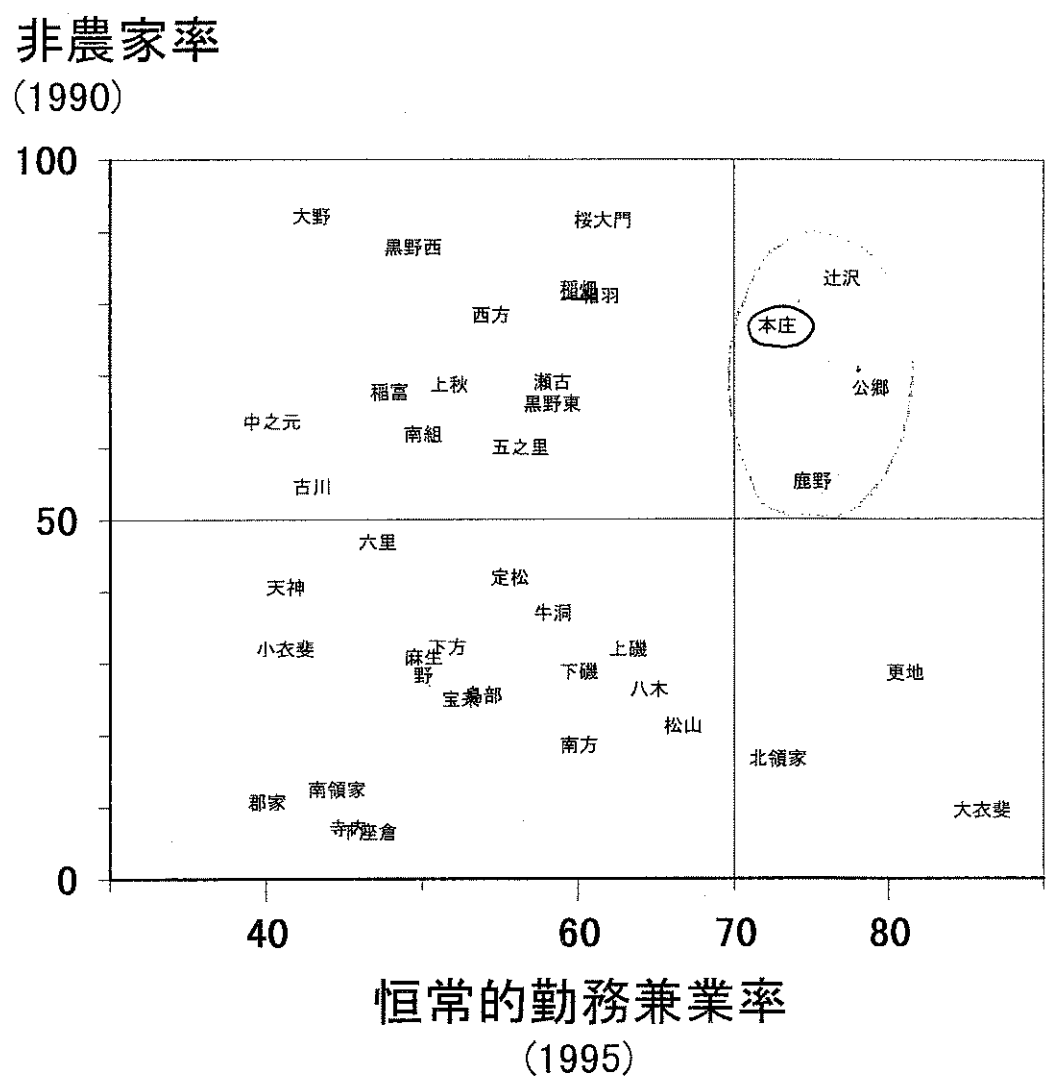
単位：%ただし「総数」及び「有効数」：人

表－2　本人（妻）の仕事について

	年代層	総数	なし	就業率	有業	自営業	会社員	公務員	パート等	ほか
本庄西	30歳代まで	24	8	62.5	15	26.7	13.3	0.0	40.0	20.0
	40歳代	36	7	77.8	28	3.6	10.7	0.0	71.4	14.3
	50歳代	13	4	69.2	9	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
	60歳代以上	14	9	28.6	4	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0
	計	87	28	64.4	56	10.7	14.3	0.0	60.7	14.3
稲畑	30歳代まで	29	12	55.2	16	18.8	6.3	12.5	62.5	0.0
	40歳代	25	4	80.0	20	25.0	5.0	15.0	50.0	5.0
	50歳代	25	5	76.0	19	26.3	15.8	5.3	52.6	0.0
	60歳代以上	18	8	50.0	9	55.6	11.1	0.0	33.3	0.0
	計	97	29	66.0	64	28.1	9.4	9.4	51.6	1.6
	総計	184	57	65.2	120	20.0	11.7	5.0	55.8	7.5

単位：%ただし「総数」及び「なし」：人

が何らかの仕事をしている。その多くは、パート（内職）であるが、両集落の間には明瞭な差異がみられる。すなわち、稲畑では、約半数がパートであるものの、自営業が60歳代で55.6%、



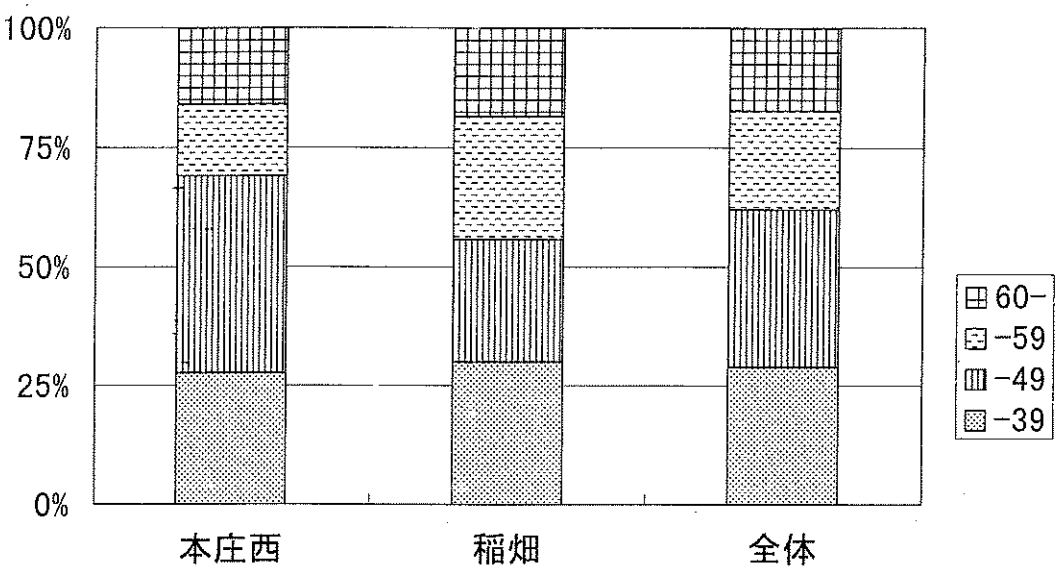
単位:%
資料:農業集落カード

図－2　恒常的勤務兼業率からみた集落分布

40～50歳代でも25%強みられる。一方、本庄西の場合、自営業は30歳代までと60歳代までに分かれており、40～50歳代はパート、特に50歳代では33.3%が会社員である。

こうした差異は、対象地域の選定方法を反映しているといえるが、男性に比べて、女性が世帯の状況に応じて柔軟な就業形態を採っていることが読み取られる。つまり、本庄西の場合、わが国都市周辺部の女性の就業パターンをよく反映しているといえ、一方、稲畑の場合、都市周辺部というよりも農村中心的性格を反映したものとみられる。この点は、男性の就労パターンに大きな差異がみられないことと比べ、注目されるが、同時により農村的である稲畑で、男性が企業で就労する傾向が強い点も留意する必要があろう。

2）生活行動



図－3　年代別構成

表－3　仕事先

	年代層	総数	有効数	有効率	町内	町外
本庄西	30歳代まで	15	13	86.7	23.1	76.9
	40歳代	28	26	92.9	30.8	69.2
	50歳代	9	9	100.0	33.3	66.7
	60歳代以上	4	6	150.0	33.3	66.7
	計	56	54	96.4	29.6	70.4
稲畑	30歳代まで	16	16	100.0	50.0	50.0
	40歳代	20	19	95.0	47.4	52.6
	50歳代	19	18	94.7	55.6	44.4
	60歳代以上	9	9	100.0	55.6	44.4
	計	64	62	96.9	51.6	48.4
	総計	120	116	96.7	41.4	58.6

単位：%ただし「総数」及び「有効数」：人

表－4　通勤時間

	年代層	総数	有効数	有効率	～10分	～20分	～30分	～60分
本庄西	30歳代まで	15	11	73.3	18.2	36.4	27.3	18.2
	40歳代	28	25	89.3	60.0	16.0	4.0	20.0
	50歳代	9	9	100.0	22.2	55.6	11.1	11.1
	60歳代以上	4	5	125.0	20.0	20.0	20.0	40.0
	計	56	50	89.3	40.0	28.0	12.0	20.0
稲畑	30歳代まで	16	16	100.0	62.5	31.3	6.3	0.0
	40歳代	20	17	85.0	41.2	35.3	17.6	5.9
	50歳代	19	15	78.9	53.3	26.7	6.7	13.3
	60歳代以上	9	6	66.7	33.3	16.7	0.0	50.0
	計	64	54	84.4	50.0	29.6	9.3	11.1
	総計	120	104	86.7	45.2	28.8	10.6	15.4

単位：%ただし「総数」及び「有効数」：人

表－5　通勤手段

	年代層	総数	有効数	有効率	徒歩	自家用車	鉄道	自転車	バス	ほか
本庄西	30歳代まで	15	11	73.3	0.0	90.9	0.0	0.0	0.0	9.1
	40歳代	28	27	96.4	3.7	85.2	0.0	3.7	0.0	7.4
	50歳代	9	9	100.0	11.1	77.8	0.0	11.1	0.0	0.0
	60歳代以上	4	6	150.0	0.0	66.7	16.7	0.0	0.0	16.7
	計	56	53	94.6	3.8	83.0	1.9	3.8	0.0	7.5
稲畑	30歳代まで	16	17	106.3	0.0	82.4	0.0	5.9	0.0	11.8
	40歳代	20	17	85.0	11.8	58.8	5.9	17.6	0.0	5.9
	50歳代	19	17	89.5	0.0	70.6	0.0	17.6	0.0	11.8
	60歳代以上	9	6	66.7	0.0	66.7	16.7	0.0	0.0	16.7
	計	64	57	89.1	3.5	70.2	3.5	12.3	0.0	10.5
	総計	120	110	91.7	3.6	76.4	2.7	8.2	0.0	9.1

単位：%ただし「総数」及び「有効数」：人

通勤　彼女たちの仕事先は（表－3）、半数以上は町外である（58.6%）。特に本庄西の場合は7割が町外であり、半数以上が町内である稲畑と対照的である。通勤には主として自家用車が用いられる。本庄西では、年齢の低い層ほど自家用車の利用率が高い傾向が顕著である。仕事先が近いことを反映して、稲畑では40～50歳代で自転車が用いられることも多い。また、「そのほか」には「バイク」・「スクーター」が挙げられている。公共交通機関としてのバスは通勤にはまったく用いられていないが、60歳代以上の間では鉄道が利用されている。通勤時間は（表－5）、概ね20分以内（74%）、通勤先が町外に多いことを反映して本庄西の方が若干長い傾向がある。

買い物　日用品や食料品の買い物先についてもきわめて好対照の結果となっている（表－6）。本庄西では真正町（50.6%）をはじめとし、町外で買い物をする傾向が強いのに対し、稲畑では9割近くが町内で日常的な買い物を行って

表－6　買い物先

	年代層	総数	有効数	有効率	町内	高正町	岐阜市	神戸町	大垣市	ほか
本庄西	30歳代まで	24	24	100.0	37.5	41.7	8.3	0.0	0.0	12.5
	40歳代	36	36	100.0	30.6	50.0	8.3	2.8	0.0	8.3
	50歳代	13	13	100.0	23.1	53.8	0.0	15.4	7.7	0.0
	60歳代以上	14	14	100.0	35.7	64.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	87	87	100.0	32.2	50.6	5.7	3.4	1.1	6.9
稲畑	30歳代まで	29	29	100.0	89.7	6.9	3.4	0.0	0.0	0.0
	40歳代	25	25	100.0	96.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	25	24	96.0	79.2	12.5	4.2	0.0	0.0	4.2
	60歳代以上	18	18	100.0	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	97	96	99.0	88.5	7.3	3.1	0.0	0.0	1.0
	総計	184	183	99.5	61.7	27.9	4.4	1.6	0.5	3.8

単位：%　ただし「総数」及び「有効数」：人

表－7　買い物の移動手段

	年代層	総数	有効数	有効率	徒歩	自家用車	鉄道	自転車	バス	ほか
本庄西	30歳代まで	24	24	100.0	0.0	95.8	0.0	0.0	0.0	4.2
	40歳代	36	35	97.2	0.0	94.3	0.0	5.7	0.0	0.0
	50歳代	13	13	100.0	0.0	92.3	0.0	7.7	0.0	0.0
	60歳代以上	14	14	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	87	86	98.9	0.0	95.3	0.0	3.5	0.0	1.2
稲畑	30歳代まで	29	28	96.6	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	25	24	96.0	0.0	83.3	0.0	16.7	0.0	0.0
	50歳代	25	23	92.0	0.0	82.6	0.0	13.0	0.0	4.3
	60歳代以上	18	17	94.4	5.9	41.2	0.0	47.1	0.0	5.9
	計	97	92	94.8	1.1	80.4	0.0	16.3	0.0	2.2
	総計	184	178	96.7	0.6	87.6	0.0	10.1	0.0	1.7

単位：%　ただし「総数」及び「有効数」：人

表－8　買い物先までの所要時間

	年代層	総数	有効数	有効率	～10分	～20分	～30分	～60分
本庄西	30歳代まで	24	24	100.0	87.5	12.5	0.0	0.0
	40歳代	36	34	94.4	67.6	23.5	5.9	2.9
	50歳代	13	12	92.3	75.0	16.7	8.3	0.0
	60歳代以上	14	12	85.7	58.3	33.3	8.3	0.0
	計	87	82	94.3	73.2	20.7	4.9	1.2
稲畑	30歳代まで	29	28	96.6	92.9	7.1	0.0	0.0
	40歳代	25	23	92.0	87.0	13.0	0.0	0.0
	50歳代	25	21	84.0	76.2	19.0	4.8	0.0
	60歳代以上	18	15	83.3	66.7	26.7	6.7	0.0
	計	97	87	89.7	82.8	14.9	2.3	0.0
	総計	184	169	91.8	78.1	17.8	3.6	0.6

単位：%　ただし「総数」及び「有効数」：人

表－9　買い物の回数／週

	年代層	総数	有効数	有効率	1	2	3	4	5	6
本庄西	30歳代まで	24	24	100.0	20.8	33.3	20.8	12.5	8.3	4.2
	40歳代	36	34	94.4	14.7	17.6	47.1	8.8	11.8	0.0
	50歳代	13	12	92.3	8.3	33.3	41.7	8.3	8.3	0.0
	60歳代以上	14	14	100.0	35.7	42.9	21.4	0.0	0.0	0.0
	計	87	84	96.6	19.0	28.6	34.5	8.3	8.3	1.2
稲畑	30歳代まで	29	28	96.6	21.4	35.7	25.0	3.6	7.1	7.1
	40歳代	25	23	92.0	8.7	26.1	26.1	26.1	8.7	4.3
	50歳代	25	22	88.0	9.1	27.3	27.3	13.6	18.2	4.5
	60歳代以上	18	17	94.4	17.6	29.4	5.9	29.4	17.6	0.0
	計	97	90	92.8	14.4	30.0	22.2	16.7	12.2	4.4
	総計	184	174	94.6	16.7	29.3	28.2	12.6	10.3	2.9

単位：%　ただし「総数」及び「有効数」：人

表－10　居住歴（全体）

	全体	無効	現在地	町内	町外	総数
本庄西	出生地	4	0	5	78	87
	初就職	7	0	5	75	87
	結婚時	4	12	7	64	87
	出産時	11	20	5	51	87
	初出産後	21	30	3	33	87
	他の事由	4	0	5	78	87
稲畑	出生地	14	5	11	67	97
	初就職	18	3	5	71	97
	結婚	16	19	9	53	97
	出産時	21	24	13	39	97
	初出産後	31	35	8	23	97
	他の事由	93	0	1	3	97

単位：人

いる（88.5%）。買い物には（表－7）、通勤と同様、主として自家用車が用いられているが（87.6%）、やはり稲畑では自転車を用いる場合も少なくない。また、買い物には公共交通機関はまったく用いられていない。買い物先までの所要時間は（表－8）、おおよそ20分以内（95.9%）であるが、本庄西の方が若干長い傾向にある。1週間に買い物にいく回数は（表－9）、全体的に2回（29.3%）ないし3回（28.2%）がほとんどであるが、稲畑ではかなり差が大きく、頻繁に買い物に出かける傾向がある。

以上のように、通勤、買い物を通してみた被調査者の生活の領域と行動は、全体的に自家用車を用いた移動が行われているものの、両集落で対照的な面がみられた。つまり、本庄西の場合には移動手段としての自家用車への依存傾向がより強く、生活領域は町の範域を越える傾向がある。逆に、稲畑の場合には、自家用車のほかに自転車などを移動手段として用いる傾向があり、大野町内が生活の範域としての意味がより強いとみられる。

3）居住歴・選好

居住歴　被調査者の居住歴について、ライフステージごとにみたのが表－10である。全体としては、必ずしも世帯のライフステージによる移住という性格をもっていない点に特徴があるが、それでも結婚時、出産時に現在地に転入してきた傾向も読み取られる。特に本庄西においては、結婚、出産を契機として転入してきており、30歳代ではその傾向がより明瞭である（表－11）。他方、稲畑でも同様の傾向がみられるが、出生地が町内及び現在地である場合もある。

選好　現在地に移転してきた事由を上位から3つまで選択してもらった1位について示したのが表－12である。「土地・家屋の価格が適当であった」とするものが過半数を占めており（55.5%）、特に本庄西でその傾向が強い

表―11　居住歴（30歳代まで）

	～30歳代	無効	現在地	町内	町外	総数
本庄西	出生地	0	0	2	22	24
	初就職	1	0	3	20	24
	結婚時	0	6	3	15	24
	出産時	3	11	1	9	24
	初出産後	5	12	1	6	24
	他の事由	24	0	0	0	24
稲畑	出生地	0	2	2	25	29
	初就職	0	2	1	26	29
	結婚	0	8	4	17	29
	出産時	0	13	4	12	29
	初出産後	4	16	3	6	29
	他の事由	29	0	0	0	29

単位：人

表―12　先好理由第一位

	年代層	総数	有効数	有効率	通勤	日常	環境	価格	ほか
本庄西	30歳代まで	24	19	79.2	10.5	0.0	5.3	63.2	21.1
	40歳代	36	35	97.2	14.3	2.9	20.0	54.3	8.6
	50歳代	13	13	100.0	7.7	0.0	30.8	53.8	7.7
	60歳代以上	14	14	100.0	0.0	0.0	21.4	78.6	0.0
	計	87	81	93.1	9.9	1.2	18.5	60.5	9.9
稲畑	30歳代まで	29	20	69.0	25.0	5.0	15.0	55.0	35.0
	40歳代	25	15	60.0	6.7	0.0	20.0	73.3	13.3
	50歳代	25	10	40.0	0.0	10.0	20.0	70.0	20.0
	60歳代以上	18	7	38.9	14.3	42.9	0.0	42.9	28.6
	計	97	65	67.0	10.8	7.7	12.3	49.2	20.0
	総計	184	146	79.3	10.3	4.1	15.8	55.5	14.4

単位：%ただし「総数」及び「有効数」：人

(60.5%)。それに次ぐのが「緑が多いなど周辺の居住環境のよさ」であるが、第一位の事由としては15.8%に過ぎない。しかし、本庄西では2割近くの人が第一位の事由としてあげている点は注目される（18.5%)。さらに「そのほか」が続いているが「夫の実家が近い」という記入が数多くみられた。特に稲畑でその傾向が強く、選択肢に設けていればもっと高い数値であったと思われる。

他方、上位3つに選ばれなかったものについても集計してみた(表―13)。「通勤の便の良さ」、「買い物など日常生活の便の良さ」はあまり移転の事由とはなっていなかったことが明らかである。その反面、「価格」「環境」については、多くの場合何らかの考慮がなされていたといえる。

以上のように、非農家の人々が現住地に移転するにあたって、以下の点を指摘することができるであろう。すなわち「価格」が強く志向されていた点、一方、緑が多いといった大野町の「居住環境」についても何らかの考慮をしていた点である。また、これらは世帯のライフステージと必ずしも強い結びつきを持っていないが、他方で自分自身が町内の出身者であったり、「夫の実家」との近接性を考慮するなど地縁的つながりを持った転入も少なくないことも指摘しておきたい。

表―13　考慮されなかったもの

	年代層	総数	有効数	有効率	通勤	日常	環境	価格	ほか
本庄西	30歳代まで	24	19	79.2	17	21	14	8	16
	40歳代	36	35	97.2	24	29	15	9	28
	50歳代	13	13	100.0	9	12	2	3	11
	60歳代以上	14	14	100.0	12	9	6	1	13
	計	87	81	93.1	62	71	37	21	68
稲畑	30歳代まで	29	20	69.0	15	18	12	10	15
	40歳代	25	15	60.0	9	7	7	3	14
	50歳代	25	10	40.0	8	5	5	4	10
	60歳代以上	18	7	38.9	7	5	5	1	7
	計	97	65	67.0	39	35	29	18	46
	総計	184	146	79.3	—	—	—	—	—

単位：%ただし「総数」及び「有効数」：人

4）生活領域への帰属意識―行事への参加

土地を生産・生活の基本的基盤としていない非農家の人々が、どの程度自らの生活領域に帰属意識をもっているかを明らかにすることは必ずしも容易ではない。ここでは、町内で催される様々なイベントへの参加状況を通じて推量することとした。

全体的な傾向　行事によって参加の度合いに大きな差異がみられた（表―14)。際立って高いのは、本庄西における「クリーン活動」への参加で(「いつも参加」75.9%)、稲畑の場合と大きな違いがみられた。一方、全般的に高いのが「大野まつり」であり、「大野おどり」では若干、稲畑で高い傾向がみられるものの全般的には低調であるのと対照的である。また「大野町バラまつり」についても、両集落ともに参加の度合いが比較的高く、本庄西でその傾向が強い。逆に、「農協大野フェスティバル」、「町主催の音楽会」については全般的に低い参加度合いであり、特に後者は知名度も低い。

こうした結果から、大野町の伝統的行事や農業者を主たる対象とする行事に対しては必ずしも強い関心を寄せていないことがうかがわれる。ただし、町の産物であるバラに対しては、非農家の人々が共通して関心を寄せていること、また、「大野まつり」への参加度合いも低

表―14　町のイベント・コミュニティ活動への参加

	知らない	知っているが参加しな	参加したいがしていな	参加することがある	いつも参加	無回答	合計
町主催音楽会	37.9	44.8	4.6	9.2	3.4	0.0	100.0
	41.2	35.1	3.1	9.3	6.2	5.2	100.0
大野町バラまつり	6.9	25.3	4.6	54.0	9.2	0.0	100.0
	7.2	40.2	6.2	34.0	5.2	7.2	100.0
クリーン活動	5.7	1.1	2.3	14.9	75.9	0.0	100.0
	16.5	22.7	6.2	20.6	28.9	5.2	100.0
根尾川花火大会	6.9	41.4	6.9	32.2	12.6	0.0	100.0
	19.6	7.2	35.1	33.0	0.0	5.2	100.0
大野まつり	9.2	37.9	4.6	37.9	10.3	0.0	100.0
	1.0	28.9	7.2	37.1	20.6	5.2	100.0
大野おどり	23.0	69.0	2.3	3.4	2.3	0.0	100.0
	4.1	54.6	8.2	21.6	6.2	5.2	100.0
農協大野ﾌｪｽﾃﾊﾞﾙ	35.6	42.5	2.3	14.9	4.6	0.0	100.0
	21.6	30.9	5.2	21.6	14.4	6.2	100.0

単位%, 上段:本庄西, 下段:稲畑

表―15　農業を営んでいる親戚、友人

	年代層	いない	両親	兄弟姉妹	親戚	友人	そのほか	無回答	総数
本庄西	30歳代まで	41.4	17.2	3.4	10.3	17.2	0.0	37.9	29
	40歳代	72.0	36.0	16.0	24.0	16.0	0.0	20.0	25
	50歳代	20.0	4.0	0.0	12.0	12.0	0.0	20.0	25
	60歳代以上	33.3	0.0	22.2	16.7	22.2	5.6	0.0	18
	計	42.3	15.5	9.3	15.5	16.5	1.0	21.6	97
稲畑	30歳代まで	37.5	58.3	25.0	29.2	12.5	0.0	0.0	24
	40歳代	30.6	13.9	11.1	27.8	11.1	2.8	0.0	36
	50歳代	46.2	23.1	23.1	69.2	61.5	7.7	84.6	13
	60歳代以上	78.6	0.0	0.0	21.4	35.7	0.0	85.7	14
	計	42.5	25.3	14.9	33.3	23.0	2.3	26.4	87

単位:%　ただし,「総数」は人

くないことから大野町に対する帰属意識が低いとはいえない。コミュニティ単位の活動である「クリーン活動」に対する参加の差異は、稲畑は自治会が農家と混在しているのに対し、本庄西が非農家のみで構成される自治会であることと関係しているように思われる。

4．農業との関係性

ここでは農地を所有しない「非農家」とされる人々について、農業・農業者との関係性、あるいは日常生活の中での「農」的営みのあり方を探る。大野町在住の農家ではない人々が「農」とどのようなかたちで関係を切り結んでいるかを明らかにすることによって、今後の関係づくりの礎を提示するためである。ただし、ここでの回答率は稲畑においてきわめて低かったことを予めお断りしておかなければならない。

1）農業との関わり

農業者との関係　まず、自身が農地所有者になったことがあるかについて尋ねたところ、稲畑で10名、本庄西でも２名が農地所有暦があると回答している。通常、女性が所有することが稀であることを勘案すれば、夫を含めた所有暦を尋ねるべきであったが、それでも特に稲畑の場合のように、農地を所有していた、つまり自家が農家であったという経験をもつ人も少なくない。さらに、農業者の親戚、知人の有無については（表―15)、まったくいない人が42.4%であり、逆に過半数が農業者の親戚、友人を持っているといえる。稲畑では４分の１以上は両親が農業者であり（25.3%)、３分の１は親戚に農業者がいる（33.3%)。稲畑ほど顕著ではないにしろ、本庄西でも農業者の友人を持つ人々（16.5%）を含めて、過半数が農業者と何らかの個人的つながりを持っている。

表―16・1　農業に関する体験（稲畑）

		親戚の農作業の手伝い	農業体験などの行事に参加	農地を借りている	庭で家庭菜園	庭の手入れ	土いじりしてみたい	そのほか	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	37.9	0.0	3.4	24.1	41.4	17.2	3.4	0	37	29
	40歳代	16.0	0.0	4.0	16.0	40.0	20.0	4.0	16	41	25
	50歳代	4.0	0.0	24.0	24.0	52.0	16.0	0.0	16	46	25
	60歳代以上	0.0	0.0	16.7	5.6	44.4	11.1	5.6	8	23	18
仕事	無職	13.8	0.0	6.9	20.7	55.2	10.3	3.4	8	40	29
	自営業	16.7	0.0	16.7	5.6	33.3	27.8	5.6	8	27	18
	パート等	20.6	0.0	11.8	23.5	44.1	14.7	0.0	16	55	34
	恒常的勤務	8.3	0.0	8.3	25.0	25.0	25.0	8.3	8	20	12
夫仕事	自営業	15.4	0.0	19.2	11.5	19.2	15.4	3.8	24	46	26
	パート等	0.0	0.0	0.0	66.7	100.0	0.0	0.0	0	5	3
	恒常的勤務	20.7	0.0	10.3	22.4	50.0	15.5	3.4	16	87	58
居住年数	0～3年	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0	3	3
	4～10年	24.3	0.0	2.7	16.2	51.4	16.2	2.7	16	58	37
	11～20年	14.3	0.0	10.7	21.4	53.6	14.3	7.1	8	42	28
	21年～30年	0.0	0.0	30.0	25.0	25.0	20.0	0.0	8	28	20
	30年～	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0	4	3
	合計	21.6	0.0	16.5	23.7	49.5	21.6	8.2	40	187	97

単位：%
ただし，「無回答」「回答総数」「回答者数」は人

表―16・2　農業に関する体験（本庄西）

		親戚の農作業の手伝い	農業体験などの行事に参加	農地を借りている	庭で家庭菜園	庭の手入れ	土いじりしてみたい	そのほか	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	13.6	0.0	0.0	9.1	63.6	18.2	0.0	0	25	22
	40歳代	5.6	2.8	13.9	22.2	69.4	13.9	0.0	0	46	36
	50歳代	7.7	0.0	15.4	7.7	69.2	15.4	0.0	0	15	13
	60歳代以上	0.0	0.0	35.7	14.3	78.6	21.4	0.0	0	21	14
仕事	無職	7.1	0.0	21.4	14.3	60.7	0.0	0.0	0	29	28
	自営業	16.7	0.0	0.0	16.7	50.0	50.0	0.0	0	8	6
	パート等	7.1	2.4	11.9	14.3	76.2	21.4	0.0	0	56	42
	恒常的勤務	0.0	0.0	12.5	25.0	50.0	12.5	0.0	0	8	8
夫仕事	自営業	5.6	0.0	16.7	22.2	61.1	27.8	0.0	0	24	18
	パート等	0.0	0.0	28.6	14.3	85.7	14.3	0.0	0	10	7
	恒常的勤務	7.8	2.0	7.8	11.8	72.5	13.7	0.0	0	59	51
居住年	0～3年	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	28.6	0.0	0	5	7
	4～10年	18.2	0.0	0.0	9.1	63.6	18.2	0.0	0	12	11
	11～20年	5.8	1.4	15.9	17.4	72.5	14.5	0.0	0	88	69
	合計	6.9	1.1	13.8	14.9	67.8	16.1	0.0	0	107	87

単位：%
ただし，「無回答」「回答総数」「回答者数」は人

農業体験　農業に関する体験について示したのが、表－16－1・2である。稲畑では無回答が4割近くを占め、本庄西では全員の回答が得られた。これはこうした農業体験に対する関心の差異の表れではないかと思われる。

第一に挙げられるのは、「農作業の手伝い」に関して、親戚の手伝いは行っているにもかかわらず、友人関係の間では手伝いをした経験を持った人がいなかったことである。親戚の農作業については、稲畑の30歳代以下で特に高い割合を示し（37.9%）、本庄西でも同じ年齢層で最も高く（13.6%）、また、自営業を営む人々との相関が高い（16.7%）。一方、農地を借りている人も稲畑では50歳代（24.0%）、本庄西では60歳代（35.7%）を中心にかなり多くみられる点も注目される。自宅で家庭菜園を楽しんでいる人はさらに多く（稲畑全体で23.7%、本庄西全体で14.9%）、それぞれの世代が仕事などの状況にあわせて農業に関連する活動を余暇として楽しんでいる様子がうかがわれる。また、現段階では、多くの場合、家庭内、親戚関係の広がりの範囲でこうした活動が行われていることが読み取られよう。

将来のイメージ　こうした現状に多くの人は満足しているが（表－17－1・2、稲畑22.7%、本庄西24.1%）、さらに様々なかたちで「農」的営みにかかわりたいと考えている人たちもかなりみられる。例えば、年齢の低い層を中心とし

表―17・1　現在の希望（稲畑）

		できるならすぐにでも農業に就業したい	いつかは農業を営みたい	退職後は農業を営みたい	市民農園などを利用したい	自宅の庭に家庭菜園を作りたい	農業体験に参加したい	現状に満足している	農業に希望・関心がない	そのほか	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	0.0	0.0	6.9	3.4	24.1	3.4	51.7	20.7	0.0	0	32	29
	40歳代	0.0	0.0	8.0	0.0	20.0	8.0	28.0	36.0	0.0	18	43	25
	50歳代	0.0	0.0	8.0	8.0	16.0	8.0	44.0	8.0	4.0	18	42	25
	60歳代以上	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	27.8	27.8	0.0	9	22	18
仕事	無職	0.0	0.0	3.4	3.4	31.0	6.9	41.4	20.7	0.0	9	40	29
	自営業	0.0	0.0	5.6	0.0	16.7	11.1	38.9	22.2	0.0	9	26	18
	パート等	0.0	0.0	5.9	5.9	17.6	0.0	35.3	23.5	0.0	18	48	34
	恒常的勤務	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7	8.3	9	20	12
夫仕事	自営業	0.0	0.0	3.8	0.0	15.4	7.7	26.9	30.8	0.0	27	49	26
	パート等	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0	3	3
	恒常的勤務	0.0	0.0	8.6	5.2	20.7	5.2	44.8	22.4	0.0	18	80	58
居住年数	0～3年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	33.3	0.0	0	4	3
	4～10年	0.0	0.0	2.7	5.4	21.6	2.7	35.1	24.3	0.0	18	52	37
	11～20年	0.0	0.0	7.1	3.6	17.9	10.7	39.3	21.4	0.0	9	37	28
	21年～30年	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	5.0	45.0	15.0	5.0	9	29	20
	30年～	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0	4	3
	合計	0.0	0.0	6.2	3.1	19.6	5.2	39.2	22.7	1.0	45	139	97

単位：%　ただし、「無回答」「回答総数」「回答者数」は人

表―17・2　現在の希望（本床西）

		できるならすぐにでも農業に就業したい	いつかは農業を営みたい	退職後は農業を営みたい	市民農園などを利用したい	自宅の庭に家庭菜園を作りたい	農業体験に参加したい	現状に満足している	農業に希望・関心がない	そのほか	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	0.0	0.0	4.5	0.0	40.9	13.6	31.8	18.2	4.5	0	25	22
	40歳代	0.0	5.6	0.0	0.0	22.2	2.8	36.1	30.8	5.6	0	37	36
	50歳代	0.0	0.0	7.7	30.8	23.1	0.0	23.1	23.1	0.0	0	14	13
	60歳代以上	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1	50.0	21.4	0.0	0	13	14
仕事	無職	0.0	3.6	0.0	0.0	14.3	0.0	39.3	25.0	3.6	0	24	28
	自営業	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	50.0	16.7	0.0	0	7	6
	パート等	0.0	2.4	2.4	7.1	26.2	11.9	33.3	26.2	4.8	0	48	42
	恒常的勤務	0.0	0.0	0.0	12.5	37.5	0.0	25.0	12.5	0.0	0	7	8
夫仕事	自営業	0.0	0.0	5.6	5.6	27.8	0.0	38.9	22.2	0.0	0	18	18
	パート等	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	57.1	14.3	0.0	0	9	7
	恒常的勤務	0.0	0.0	2.0	5.9	27.5	5.9	33.3	29.4	5.9	0	56	51
居住年	0～3年	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0	0	7	7
	4～10年	0.0	9.1	0.0	18.2	18.2	9.1	45.5	0.0	0.0	0	11	11
	11～20年	0.0	1.4	1.4	4.3	24.6	4.3	34.8	27.5	4.3	0	71	69
	合計	0.0	2.3	2.3	5.7	24.1	5.7	34.5	24.1	3.4	0	89	87

単位：%　ただし、「無回答」「回答総数」「回答者数」は人

て、「自宅の庭に家庭菜園をつくりたい」という希望が多くみられ、多数ではないものの「農業体験に参加したい」、「市民農園などを利用したい」、さらには「退職後は農業を営みたい」とするものもみられた。農業に対する希望・関心を持たない人は全体の４分の１程度にとどまった。

以上のように、「非農家」の人々は現在の生活の中で何らかの「農」的営みを余暇の一部として楽しむ生活に満足しており、さらに「家庭菜園」などを中心に、活動を広げたいとする意向もあることが確認できる。

２）農産物購入・農業関連施設の利用

購入の際に留意する点　農産物の消費に関して、どのような意識をもっているかを示したのが表―18―１・２である。稲畑では、年齢の低い層を中心に価格志向性が強い傾向があり、特に夫が「恒常的勤務」の場合に強くその傾向が認められる。しかし、同時に、農産物の安全性に対する志向性も強く、「無農薬」(36.1%)、「有機栽培野菜」(24.7%) をなるべく選択しようとしている。しかし、このことは「生産者名が分かる」(18.6%)、「県内産」(9.3%) といった関係性に基づく安全性には必ずしも結びついていない。ただし、若干ではあるものの「町内産」(14.4%) を志向する傾向はやや強く、特に50歳代 (24.0%)、60歳代以上 (33.3%) の年齢層の高い層においてかなり明瞭にその傾向がみられる点は注目されよう。

一方、本庄西においても似た傾向がみられ、価格志向性についてはやや弱く、安全性についてはやや強い傾向が認められる。特に60歳代以上の層の「県内産」(35.7%)、町内産 (57.1%) といった地縁的関係に依拠した信頼性の高さは注目に値するといえよう。

つまり、年齢の低い層は、価格志向性が強い

表－18・1　農産物を購入するときに留意する点（稲畑）

		有機栽培	無農薬	生産者	有名な産地	県内産	町内産	価格	そのほか	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	13.8	31.0	24.1	17.2	6.9	3.4	65.5	6.9	0	49	29
	40歳代	28.0	32.0	8.0	12.0	16.0	4.0	44.0	4.0	16	53	25
	50歳代	32.0	44.0	16.0	0.0	8.0	24.0	20.0	0.0	16	52	25
	60歳代以上	27.8	38.9	27.8	11.1	5.6	33.3	22.2	0.0	8	38	18
仕事	無職	27.6	31.0	37.9	20.7	13.8	13.8	37.9	6.9	8	63	29
	自営業	33.3	44.4	11.1	11.1	5.6	27.8	38.9	0.0	8	39	18
	パート等	20.6	41.2	11.8	5.9	11.8	11.8	38.2	0.0	16	64	34
	恒常的勤務	8.3	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3	50.0	8.3	8	20	12
夫仕事	自営業	30.8	42.3	11.5	11.5	3.8	26.9	30.8	0.0	24	65	26
	パート等	66.7	100.0	66.7	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0	10	3
	恒常的勤務	17.2	29.3	17.2	8.6	12.1	6.9	50.0	5.2	16	101	58
居住年数	0～3年	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0	5	3
	4～10年	18.9	45.9	24.3	16.2	10.8	13.5	37.8	5.4	16	80	37
	11～20年	25.0	28.6	7.1	7.1	14.3	7.1	53.6	3.6	8	49	28
	21年～30年	30.0	30.0	15.0	5.0	0.0	25.0	35.0	0.0	8	36	20
	30年～	100.0	100.0	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0	10	3
	合計	24.7	36.1	18.6	10.3	9.3	14.4	40.2	3.1	40	192	97

単位：%　ただし、「無回答」「回答総数」「回答者数」は人

表－18・2　農産物を購入するときに留意する点（本庄西）

		有機栽培	無農薬	生産者	有名な産地	県内産	町内産	価格	そのほか	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	36.4	40.9	18.2	13.6	9.1	0.0	45.5	9.1	0	38	22
	40歳代	19.4	30.6	19.4	13.9	16.7	8.3	36.1	11.1	0	56	36
	50歳代	38.5	46.2	46.2	15.4	15.4	15.4	15.4	7.7	0	26	13
	60歳代以上	35.7	35.7	0.0	14.3	35.7	57.1	28.6	7.1	0	30	14
仕事	無職	28.6	32.1	28.6	10.7	14.3	21.4	28.6	3.6	0	47	28
	自営業	16.7	33.3	0.0	16.7	33.3	16.7	66.7	0.0	0	11	6
	パート等	26.2	35.7	19.0	14.3	19.0	9.5	35.7	16.7	0	74	42
	恒常的勤務	37.5	37.5	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0	0	11	8
夫仕事	自営業	33.3	55.6	27.8	33.3	16.7	16.7	38.9	0.0	0	40	18
	パート等	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	71.4	0.0	0	10	7
	恒常的勤務	27.5	33.3	21.6	7.8	19.6	11.8	33.3	13.7	0	86	51
居住年	0～3年	14.3	28.6	42.9	28.6	14.3	0.0	28.6	0.0	0	11	7
	4～10年	36.4	45.5	18.2	27.3	0.0	0.0	45.5	0.0	0	19	11
	11～20年	29.0	34.8	18.8	10.1	20.3	18.8	31.9	11.6	0	121	69
	合計	28.7	35.6	20.7	13.8	17.2	14.9	33.3	9.2	0	151	87

単位：%　ただし、「無回答」「回答総数」「回答者数」は人

傾向にあるが、全体的に安全性に対する何らかの配慮をする傾向もみられ、年齢の高い層では「町内産」を中心に地縁的な関係性に基づく信頼によって農産物を選択しようとする志向性が存在することが明らかである。

町内農業施設等の利用　町内には各種の農産物販売拠点が設置されているほか、農業に関連する施設も存在している。さらに「非農家」の人々は農村的景観あるいは「田園風景」を生活の一部とし得ると考えられる。ここではそうした販売拠点・施設の利用、さらに環境としての田園空間を消費している意識の有無について示す（表－19－1・2）。

ここでは両集落はかなり異なる傾向を示している。稲畑では、「グリーンハウス（ルート303）」(49.5%)、「農協直販施設」(30.9%）の利用経験がある人の割合が高い。特に前者は、約半数の人が利用したことがあるとしており、自営業(61.1%)、パート（52.9%）の人を中心に利用されている様子がうかがわれる。また、後者は、仕事をしていない人の利用率が高い（41.4%)。さらに、低い年齢層の人々を中心に「知り合いの農家から農産物を分けてもらう」(29.9%）経験をしたことがあると答えており、30歳代まででは過半数を超す（51.7%)。

一方、本庄西では、「知り合いの農家から農産物を分けてもらう」(36.8%）のは年齢の低い層である点で稲畑と共通しているが、一定の居住暦を持った人々である。農産物販売施設では「農家の直接販売」(26.4%)、「鶏卵自動販売機」(26.4%）の利用率が高い。特に、後者は居住暦が浅い層ほど利用率が高い傾向が読み取られる。先にみた地縁的関係に基づく信頼の上で農産物を購入しようとする志向性が、農産物を分

表－19・1　施設等の利用（稲畑）

		グリーンハウス(ルート303)	農協直販施設	お米ハウス	農家直接販売	鶏卵自動販売機	知り合いの農家	バラ公園散歩	田園風景散歩	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	41.4	34.5	13.8	17.2	20.7	51.7	13.8	31.0	0.0	65	29
	40歳代	56.0	40.0	4.0	20.0	16.0	24.0	12.0	20.0	64.0	64	25
	50歳代	64.0	24.0	24.0	20.0	8.0	20.0	8.0	20.0	64.0	63	25
	60歳代以上	33.3	22.2	5.6	27.8	11.1	16.7	16.7	27.8	44.4	37	18
仕事	無職	37.9	41.4	3.4	34.5	17.2	31.0	20.7	37.9	27.6	73	29
	自営業	61.1	22.2	27.8	11.1	11.1	38.9	5.6	22.2	44.4	44	18
	パート等	52.9	26.5	17.6	11.8	17.6	20.6	11.8	20.6	47.1	77	34
	恒常的勤務	41.7	33.3	0.0	25.0	8.3	33.3	8.3	16.7	66.7	28	12
夫仕事	自営業	53.8	19.2	23.1	11.5	11.5	26.9	7.7	23.1	92.3	70	26
	パート等	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	0.0	11	3
	恒常的勤務	44.8	37.9	6.9	20.7	17.2	34.5	15.5	24.1	27.6	133	58
居住年数	0～3年	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0	6	3
	4～10年	56.8	32.4	16.2	29.7	24.3	29.7	16.2	16.2	43.2	98	37
	11～20年	35.7	25.0	7.1	14.3	10.7	28.6	3.6	21.4	28.6	49	28
	21年～30年	65.0	40.0	15.0	20.0	10.0	30.0	15.0	45.0	40.0	56	20
	30年～	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	7	3
	合計	49.5	30.9	12.4	20.6	14.4	29.9	12.4	24.7	41.2	229	97

単位：%　ただし、「回答総数」「回答者数」は人

表－19・2　施設等の利用（本庄西）

		グリーンハウス(ルート303)	農協直販施設	お米ハウス	農家直接販売	鶏卵自動販売機	知り合いの農家	バラ公園散歩	田園風景散歩	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	36.4	22.7	4.5	27.3	45.5	50.0	40.9	13.6	0.0	53	22
	40歳代	22.2	16.7	11.1	27.8	19.4	36.1	27.8	19.4	0.0	65	36
	50歳代	30.8	30.8	0.0	38.5	38.5	7.7	53.8	53.8	0.0	33	13
	60歳代以上	28.6	21.4	0.0	14.3	7.1	14.3	42.9	42.9	0.0	24	14
仕事	無職	35.7	14.3	7.1	21.4	25.0	25.0	50.0	32.1	0.0	59	28
	自営業	0.0	33.3	0.0	16.7	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	9	6
	パート等	23.8	23.8	4.8	26.2	26.2	33.3	31.0	23.8	0.0	81	42
	恒常的勤務	50.0	25.0	12.5	37.5	25.0	12.5	25.0	37.5	0.0	18	8
夫仕事	自営業	11.1	22.2	5.6	27.8	22.2	16.7	33.3	33.3	0.0	31	18
	パート等	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	71.4	57.1	0.0	15	7
	恒常的勤務	33.3	21.6	7.8	33.3	35.3	43.1	35.3	21.6	0.0	118	51
居住年	0～3年	42.9	42.9	14.3	14.3	42.9	14.3	28.6	28.6	0.0	16	7
	4～10年	27.3	9.1	9.1	9.1	36.4	36.4	45.5	36.4	0.0	23	11
	11～20年	26.1	20.3	4.3	30.4	23.2	31.9	36.2	24.6	0.0	136	69
	合計	27.6	20.7	5.7	26.4	26.4	31.0	36.8	26.4	0.0	175	87

単位：%　ただし、「回答総数」「回答者数」は人

けてもらえる関係を農家との間につくるのに必要な居住年数、鶏卵自動販売機の利用に表れているように推測される。また、農村環境を余暇の楽しみとする「バラ公園の散歩」(36.8%)、「田園風景の中を散歩」(26.4%) が、特に50歳代以上の仕事をしていない人々を中心とした年齢層に高い割合でみられる。

以上、「非農家」の人々の農業関連との関わり、意識についてみてきた。「非」農家といっても、多くの人々が農業者と個人的関係を持っており、「農」的要素を現在の生活の一部に取り入れ、楽しんでいる。さらに今後、発展させたいと考えている人も少なくない様子が読み取られたであろう。また、農産物の消費には、価格を重視しつつも安全性に対する配慮をしている。特に本庄西の年齢層の高い層では、町内産の農産物を志向する傾向がみられる。さらにこうした人々は、「散歩」に表れているように農村環境をも楽しみの一部としている。

しかし、全般的にみると「非農家」は世帯や親戚を通じた比較的閉じた関係の中に置かれているともいえる。このことは逆に、大野町やコミュニティといった地縁的関係の希薄さを浮かび上がらせているようにも思われる。

3）農業・農業団体への期待

これまでに述べてきたような農業とのかかわりをもつ「非農家」の人々が、農業あるいは農業団体に対して期待することを選択してもらった（表－20－1・2）。両集落ともに、「蛍やメダカが住めるような豊かな自然環境」(稲畑62.9%、本庄西56.3%)、「緑と自然豊かなる住宅地の形成」(稲畑47.4%、本庄西47.1%)など、

表―20・1　今後の農地、農業団体・農業者に期待するもの（稲畑）

		市民農園（貸し農園）	豊かな自然環境	自然豊かな住宅形成	農村文化とのふれあい	農業側からの情報発信	地域環境についての共同	そのほか	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	10.3	62.1	48.3	0.0	0.0	20.7	0.0	0.0	41	29
	40歳代	16.0	44.0	48.0	0.0	8.0	16.0	0.0	64.0	49	25
	50歳代	8.0	56.0	32.0	12.0	4.0	12.0	0.0	64.0	47	25
	60歳代以上	0.0	72.2	38.9	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	28	18
仕事	無職	6.9	65.5	55.2	6.9	0.0	17.2	0.0	27.6	52	29
	自営業	5.6	72.2	55.6	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	32	18
	パート等	14.7	47.1	29.4	2.9	8.8	17.6	0.0	47.1	57	34
	恒常的勤務	0.0	41.7	41.7	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	20	12
夫仕事	自営業	3.8	53.8	46.2	0.0	0.0	7.7	0.0	80.8	50	26
	パート等	0.0	66.7	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	6	3
	恒常的勤務	13.8	60.3	43.1	3.4	5.2	17.2	0.0	24.1	97	58
居住年数	0～3年	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	5	3
	4～10年	13.5	62.2	51.4	0.0	5.4	8.1	0.0	37.8	66	37
	11～20年	10.7	60.7	35.7	7.1	3.6	17.9	0.0	25.0	45	28
	21年～30年	5.0	50.0	35.0	5.0	0.0	15.0	0.0	35.0	29	20
	30年～	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6	3
	合計	14.4	62.9	47.4	8.2	8.2	18.6	5.2	41.2	200	97

単位：%　ただし、「回答総数」「回答者数」は人

表―20・2　今後の農地、農業団体・農業者に期待するもの（本庄西）

		市民農園（貸し農園）	豊かな自然環境	自然豊かな住宅形成	農村文化とのふれあい	農業側からの情報発信	地域環境についての共同	そのほか	無回答	回答総数	回答者数
年代	30歳代まで	13.6	59.1	40.9	4.5	4.5	9.1	18.2	0.0	33	22
	40歳代	8.3	47.2	44.4	11.1	8.3	13.9	0.0	0.0	48	36
	50歳代	30.8	84.6	69.2	7.7	7.7	7.7	0.0	0.0	27	13
	60歳代以上	7.1	57.1	50.0	14.3	7.1	35.7	0.0	0.0	24	14
仕事	無職	10.7	46.4	53.6	3.6	3.6	25.0	3.6	0.0	41	28
	自営業	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	6	6
	パート等	16.7	61.9	45.2	11.9	11.9	9.5	4.8	0.0	68	42
	恒常的勤務	0.0	62.5	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9	8
夫仕事	自営業	5.6	55.6	50.0	16.7	0.0	16.7	5.6	0.0	27	18
	パート等	0.0	57.1	28.6	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	9	7
	恒常的勤務	13.7	56.9	49.0	9.8	7.8	13.7	5.9	0.0	80	51
居住年	0～3年	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	8	7
	4～10年	9.1	90.9	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15	11
	11～20年	13.0	52.2	49.3	11.6	8.7	18.8	4.3	0.0	109	69
	合計	12.6	56.3	47.1	9.2	6.9	14.9	4.6	0.0	132	87

単位：%　ただし、「回答総数」「回答者数」は人

「自然」を鍵概念とする住環境保全的側面に対する期待が寄せられていることが明らかになった。この傾向は、程度の差こそあれ、様々な属性についても共通している。そのほかの項目については、あまり選択されず、「地域の環境のあり方についての共同」(稲畑18.6%、本庄西14.9%）がやや高い程度となっている。この項目は、稲畑では年齢が低い層ほど高い割合を示す傾向にあり、本庄西では、一定の居住年数を経た年齢の高い層が選択している点で対照的である。「非農家」は一般に、住環境保全機能を農業、農業団体等に期待しているが、そのための農業者らとの共同のあり方についてのイメージが掴めないでいる状況が読みとられよう。

5．大野町の変化について―将来のイメージ

1）町の変化

町の変化に対する意識について、「農業中心の町」から、「サラリーマンなどの住宅地が多い町」、「企業立地を進める町」、「商業立地を進める町」へのそれぞれの変化についての意識を示したのが、表―21～23である。全体的に「わからない」とする回答が多いことに特徴がみられる。

住宅地　「もっとその方向を目指すべき」と「妥当だと思う」を賛成派とし、「もう少し人口増大は少ない方がいい」、「これ以上の人口増大は反対」を反対派とすると、稲畑では賛成派が

表―21・1　「農業中心の町」から「サラリーマンなどの住宅地が多い町」への変化について（稲畑）

		もっとその方向を目指すべき	妥当だと思う	もう少し人口の増大は少ないほうが良い	これ以上の人口の増大は反対	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	17.2	17.2	10.3	6.9	44.8	0.0	3.4	29
	40歳代	24.0	24.0	8.0	12.0	28.0	0.0	4.0	25
	50歳代	24.0	20.0	4.0	20.0	16.0	0.0	16.0	25
	60歳代以上	16.7	16.7	0.0	11.1	38.9	0.0	16.7	18
仕事	無職	20.7	20.7	10.3	17.2	27.6	0.0	3.4	29
	自営業	29.4	35.3	0.0	5.9	23.5	0.0	5.9	17
	パート等	14.7	14.7	8.8	8.8	38.2	0.0	14.7	34
	恒常的勤務	25.0	8.3	0.0	16.7	41.7	0.0	8.3	12
夫仕事	自営業	34.6	26.9	0.0	7.7	19.2	0.0	11.5	26
	パート等	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	3
	恒常的勤務	15.5	19.0	10.3	12.1	37.9	0.0	5.2	58
居住年数	0～3年	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	3
	4～10年	18.9	24.3	8.1	8.1	32.4	0.0	8.1	37
	11～20年	10.7	14.3	7.1	17.9	35.7	0.0	14.3	28
	21年～30年	10.7	14.3	7.1	17.9	35.7	0.0	14.3	28
	30年～	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	3
	全体	20.6	19.6	6.2	12.4	32.0	0.0	9.3	97

単位：%　ただし、「総数」は人

表―21・2　「農業中心の町」から「サラリーマンなどの住宅地が多い町」への変化について（本庄西）

		もっとその方向を目指すべき	妥当だと思う	もう少し人口の増大は少ないほうが良い	これ以上の人口の増大は反対	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	12.5	58.3	8.3	0.0	20.8	0.0	0.0	24
	40歳代	15.4	33.3	5.1	7.7	30.8	0.0	7.7	39
	50歳代	23.1	46.2	0.0	7.7	15.4	7.7	0.0	13
	60歳代以上	37.5	12.5	6.3	0.0	31.3	0.0	12.5	16
仕事	無職	14.3	42.9	7.1	0.0	28.6	0.0	7.1	28
	自営業	16.7	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	6
	パート等	16.7	35.7	4.8	9.5	28.6	2.4	2.4	42
	恒常的勤務	12.5	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5	8
夫仕事	自営業	22.2	38.9	5.6	0.0	27.8	0.0	5.6	18
	パート等	28.6	57.1	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	7
	恒常的勤務	7.8	45.1	5.9	5.9	29.4	2.0	3.9	51
居住年	0～3年	0.0	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	7
	4～10年	18.2	63.6	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	11
	11～20年	15.9	33.3	5.8	4.3	33.3	1.4	5.8	69
	全体	14.9	40.2	5.7	4.6	27.6	1.1	5.7	87

単位：%　ただし、「総数」は人

40.2%、本庄西では55.1%となり、全般的に宅地化、人口増を支持する傾向が強く表れた。ただ、稲畑では、本人は仕事をしておらず、「夫が恒常的勤務」、50歳代以上の人々の間に反対派が比較的多くみられる。

企業立地　前項と同様に、「もっとその方向を目指すべき」、「妥当だと思う」を賛成派とすると、稲畑では賛成派が43.3%、本庄西では55.1%と賛成派が多数を占める。特に本人(妻)が「自営業」に携わる場合に「もっとその方向を目指すべき」とする強い支持がみられた（稲畑47.1%、本庄西33.3%)。逆に「恒常的勤務」の場合には、若干ではあるが反対派の割合が高い傾向がみられる。しかし、全体としての反対派は、稲畑14.4%、本庄西16.0%と少数派である。

商業立地　大型店舗の立地に関する質問項目である。前項と同様の賛成派と「郊外型大型店はもう少し少ない方がいい」、「これ以上の大型店は反対」を反対派としてみると、賛成派が稲畑では60.8%、本庄西では58.6%とやはり多数を占めた。反対派については、稲畑では11.3%にとどまったのに対し、本庄西では21.8%となった。稲畑では、「夫が自営業」(11.5%)、本

表―22・1　「農業中心の町」から「企業立地を進める町」への変化について（稲畑）

		もっとその方向を目指すべき	妥当だと思う	企業誘致はもう少し少ないほうが良い	これ以上の企業誘致は反対	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	17.2	20.7	13.8	3.4	41.4	0.0	3.4	29
	40歳代	32.0	12.0	0.0	12.0	36.0	4.0	4.0	25
	50歳代	32.0	24.0	4.0	12.0	12.0	0.0	16.0	25
	60歳代以上	16.7	16.7	11.1	0.0	38.9	0.0	16.7	18
仕事	無職	20.7	13.8	10.3	6.9	41.4	3.4	3.4	29
	自営業	47.1	23.5	5.9	0.0	17.6	0.0	5.9	17
	パート等	14.7	23.5	5.9	8.8	32.4	0.0	14.7	34
	恒常的勤務	33.3	16.7	8.3	8.3	25.0	0.0	8.3	12
夫仕事	自営業	30.8	23.1	7.7	0.0	23.1	3.8	11.5	26
	パート等	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	3
	恒常的勤務	24.1	17.2	8.6	6.9	37.9	0.0	5.2	58
居住年数	0～3年	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	3
	4～10年	28.6	28.6	7.1	0.0	14.3	0.0	21.4	14
	11～20年	25.0	14.3	3.6	10.7	32.1	0.0	14.3	28
	21年～30年	25.0	14.3	3.6	10.7	32.1	0.0	14.3	28
	30年～	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	3
	全体	24.7	18.6	7.2	7.2	32.0	1.0	9.3	97

単位：%　ただし、「総数」は人

表―22・2　「農業中心の町」から「企業立地を進める町」への変化について（本庄西）

		もっとその方向を目指すべき	妥当だと思う	企業誘致はもう少し少ないほうが良い	これ以上の企業誘致は反対	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	33.3	33.3	12.5	0.0	16.7	4.2	0.0	24
	40歳代	25.6	25.6	10.3	5.1	25.6	0.0	7.7	39
	50歳代	46.2	15.4	15.4	0.0	15.4	7.7	0.0	13
	60歳代以上	33.3	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	6.7	15
仕事	無職	28.6	28.6	7.1	7.1	21.4	0.0	7.1	28
	自営業	33.3	16.7	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	6
	パート等	31.0	21.4	14.3	4.8	21.4	4.8	2.4	42
	恒常的勤務	25.0	25.0	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	8
夫仕事	自営業	38.9	22.2	5.6	5.6	27.8	0.0	0.0	18
	パート等	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	7
	恒常的勤務	21.6	31.4	11.8	3.9	23.5	3.9	3.9	51
居住年	0～3年	28.6	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	7
	4～10年	36.4	36.4	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	11
	11～20年	27.5	24.6	10.1	7.2	23.2	2.9	4.3	69
	全体	28.7	26.4	10.3	5.7	21.8	2.3	4.6	87

単位：%　ただし、「総数」は人

庄西では本人（妻）が何らかの仕事をしており、夫が「恒常的勤務」についている人々が反対層とみられる。

「分からない」とする態度の保留がみられるものの、全体的には開発志向を読み取ることができよう。しかし、属性別にみると注目すべき動向がみられる。

例えば、大型店舗の立地に反対傾向を示す人々が、稲畑では在来の自営業者であることは妥当な結果であるといえよう。この点では、商業者の観点から考える視点を提示しているといえる。一方、本庄西で大型店舗の立地に対して積極的ではない層は、先にみた比較的生活行動圏の広い人々であり、自動車を利用して日常的な通勤、買い物行動を行っている人々である。このような人々は必ずしも町内に大型店舗が立地する必要性を感じていないと考えられる。企業が立地し、宅地化が進展していく中で増大するのはこうした人々であることを考えると、転入してくる人々は町内に大型店舗の必要性を感じない人々であると予想されよう。

表―23・1　「農業中心の町」から「商業立地を進める町」への変化について（稲畑）

		もっとその方向を目指すべき	妥当だと思う	郊外型大型店はもう少し少ないほうが良い	これ以上の大型店は反対	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	31.0	31.0	6.9	3.4	24.1	0.0	3.4	29
	40歳代	44.0	24.0	0.0	12.0	20.0	0.0	0.0	25
	50歳代	36.0	28.0	8.0	4.0	8.0	0.0	16.0	25
	60歳代以上	33.3	11.1	0.0	11.1	38.9	0.0	5.6	18
仕事	無職	34.5	31.0	0.0	6.9	24.1	0.0	3.4	29
	自営業	57.9	21.1	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3	19
	パート等	29.4	23.5	5.9	5.9	23.5	0.0	11.8	34
	恒常的勤務	25.0	25.0	0.0	8.3	33.3	0.0	8.3	12
夫仕事	自営業	46.2	15.4	3.8	11.5	11.5	0.0	11.5	26
	パート等	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	3
	恒常的勤務	31.0	32.8	3.4	6.9	24.1	0.0	1.7	58
居住年数	0～3年	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	3
	4～10年	23.1	38.5	0.0	23.1	0.0	0.0	15.4	13
	11～20年	32.1	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	10.7	28
	21年～30年	32.1	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	10.7	28
	30年～	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
	全体	36.1	24.7	4.1	7.2	21.6	0.0	6.2	97

単位：%　ただし，「総数」は人

表―23・2　「農業中心の町」から「商業立地を進める町」への変化について（本庄西）

		もっとその方向を目指すべき	妥当だと思う	郊外型大型店はもう少し少ないほうが良い	これ以上の大型店は反対	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	16.7	58.3	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	24
	40歳代	29.7	27.0	5.4	27.0	8.1	0.0	2.7	37
	50歳代	40.0	26.7	0.0	6.7	13.3	0.0	13.3	15
	60歳代以上	26.7	13.3	0.0	20.0	33.3	0.0	6.7	15
仕事	無職	17.9	39.3	0.0	7.1	21.4	0.0	14.3	28
	自営業	16.7	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	6
	パート等	33.3	26.2	4.8	23.8	11.9	0.0	0.0	42
	恒常的勤務	12.5	50.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	8
夫仕事	自営業	17.9	39.3	0.0	7.1	21.4	0.0	14.3	28
	パート等	16.7	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	6
	恒常的勤務	33.3	26.2	4.8	23.8	11.9	0.0	0.0	42
居住年	0～3年	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	7
	4～10年	27.3	45.5	0.0	27.3	0.0	0.0	0.0	11
	11～20年	23.2	33.3	2.9	20.3	17.4	0.0	2.9	69
	全体	24.1	34.5	2.3	19.5	14.9	0.0	4.6	87

単位：%　ただし，「総数」は人

2）農業問題と道路整備

さらに、近年の農業の置かれている厳しい状況や東海環状自動車道の「大野・神戸」インター建設にともなう道路拡充・整備の二つの具体的な点から、大野町の将来に関する意識を調査した。やはり、全体的に「わからない」とする回答が多くみられ、特に非農家ということもあってか、前者について高い傾向がみられた（稲畑27・8％、本庄西23.0％）。

農業のおかれた厳しい状況　「厳しい農業情勢の中、農家の『農業離れ』が一層強まり、このままでは農業者が益々減少し耕作を放棄した土地が平坦部でも増加したり、集落の共同作業、さらには伝統的な祭りや地域社会それ自体が崩壊していくのではないかと危惧されます。このことについてどう考えますか？」という問いに対する回答を示したのが表―24―1・2である。「本当にそのとおりと強く危惧している」と「少しはその傾向がある」をあわせたものを賛成派とし、「それほど心配するほどではない」を反対派とすると、稲畑では賛成派46・4％、反対派13・4％、本庄西では52・8％、17.2％と

表―24・1　農業のおかれた厳しい情勢について（稲畑）

		強く危惧	その傾向	心配するほどではない	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	17.2	34.5	13.8	31.0	0.0	3.4	29
	40歳代	16.0	40.0	12.0	32.0	0.0	0.0	25
	50歳代	20.0	28.0	4.0	20.0	0.0	28.0	25
	60歳代以上	16.7	5.6	27.8	27.8	0.0	22.2	18
仕事	無職	13.8	27.6	20.7	27.6	0.0	10.3	29
	自営業	15.8	36.8	15.8	15.8	0.0	5.3	19
	パート等	14.7	26.5	5.9	35.3	0.0	17.6	34
	恒常的勤務	33.3	16.7	16.7	25.0	0.0	8.3	12
夫仕事	自営業	23.1	34.6	15.4	15.4	0.0	11.5	26
	パート等	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	3
	恒常的勤務	17.2	29.3	12.1	32.8	0.0	8.6	58
居住年数	0～3年	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	3
	4～10年	5.4	13.5	2.7	8.1	0.0	5.4	37
	11～20年	14.3	21.4	14.3	28.6	0.0	21.4	28
	21年～30年	14.3	21.4	14.3	28.6	0.0	21.4	28
	30年～	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	3
	全体	17.5	28.9	13.4	27.8	0.0	12.4	97

単位：％　ただし、「総数」は人

表―24・2　農業のおかれた厳しい情勢について（本庄西）

		強く危惧	その傾向	心配するほどではない	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	8.3	41.7	16.7	33.3	0.0	0.0	24
	40歳代	20.5	43.6	17.9	10.3	0.0	5.1	39
	50歳代	23.1	15.4	15.4	38.5	7.7	15.4	13
	60歳代以上	20.0	40.0	13.3	20.0	0.0	6.7	15
仕事	無職	7.1	42.9	10.7	25.0	0.0	14.3	28
	自営業	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	6
	パート等	19.0	38.1	19.0	19.0	2.4	2.4	42
	恒常的勤務	0.0	37.5	25.0	37.5	0.0	0.0	8
夫仕事	自営業	5.6	38.9	22.2	27.8	0.0	5.6	18
	パート等	14.3	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	7
	恒常的勤務	13.7	43.1	17.6	21.6	2.0	2.0	51
居住年	0～3年	14.3	14.3	0.0	57.1	0.0	14.3	7
	4～10年	18.2	45.5	9.1	27.3	0.0	0.0	11
	11～20年	11.6	42.0	20.3	18.8	1.4	5.8	69
	全体	12.6	40.2	17.2	23.0	1.1	5.7	87

単位：％　ただし、「総数」は人

なる。「非農家」の間にも農業をめぐる厳しい状況に対する理解は一定程度、浸透しているといえよう。ただし、居住年数が長いほど反対傾向が強まる傾向がみられることにも留意する必要がある。

道路拡充・整備　「大野町では東海環状自動車道の『大野・神戸インター』へのアクセス道路、303号線バイパスなどの東西・南北数本の幹線道路と数kmに１本の生活道路の拡充・整備を想定しています。こうした道路の拡充・整備についてどう考えますか？」という問いに対する回答を示したのが表―25―１・２である。「もっとその方向を目指すべき」と「妥当だと思う」の合計を賛成派とし、「もう少し道路製には少ない方が良いと思う」を反対派とすると、稲畑では賛成派62.８％、反対派8.２％、本庄西では賛成派71・３％、反対派6.９％という圧倒的に賛成派が多数を占める結果となった。本

表―25・1　道路の整備・拡充について（稲畑）

		もっとその方向を目指すべき	妥当だと思う	もう少し道路整備は少ないほうが良い	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	24.1	37.9	3.4	27.6	0.0	6.9	29
	40歳代	40.0	28.0	20.0	12.0	0.0	0.0	25
	50歳代	40.0	16.0	8.0	8.0	0.0	28.0	25
	60歳代以上	55.6	11.1	0.0	16.7	0.0	16.7	18
仕事	無職	34.5	24.1	10.3	20.7	0.0	10.3	29
	自営業	63.2	15.8	5.3	5.3	0.0	5.3	19
	パート等	29.4	32.4	5.9	14.7	0.0	17.6	34
	恒常的勤務	33.3	25.0	0.0	33.3	0.0	8.3	12
夫仕事	自営業	46.2	15.4	7.7	11.5	0.0	19.2	26
	パート等	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	3
	恒常的勤務	34.5	32.8	6.9	19.0	0.0	6.9	58
居住年数	0～3年	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	3
	4～10年	16.2	5.4	2.7	5.4	0.0	8.1	37
	11～20年	42.9	17.9	7.1	17.9	0.0	14.3	28
	21年～30年	42.9	17.9	7.1	17.9	0.0	14.3	28
	30年～	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3
	全体	38.1	24.7	8.2	16.5	0.0	12.4	97

単位：%　ただし，「総数」は人

表―25・2　道路の整備・拡充について（本庄西）

		もっとその方向を目指すべき	妥当だと思う	もう少し道路整備は少ないほうが良い	わからない	そのほか	無回答	総数
年代	30歳代まで	37.5	37.5	8.3	20.8	4.2	0.0	24
	40歳代	35.9	43.6	2.6	7.7	2.6	2.6	39
	50歳代	46.2	30.8	7.7	15.4	0.0	15.4	13
	60歳代以上	26.7	26.7	13.3	20.0	6.7	6.7	15
仕事	無職	25.0	32.1	7.1	21.4	3.6	10.7	28
	自営業	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	6
	パート等	40.5	45.2	2.4	9.5	2.4	0.0	42
	恒常的勤務	37.5	25.0	12.5	12.5	0.0	12.5	8
夫仕事	自営業	33.3	33.3	16.7	5.6	11.1	0.0	18
	パート等	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	7
	恒常的勤務	33.3	45.1	3.9	13.7	2.0	2.0	51
居住年	0～3年	28.6	42.9	0.0	14.3	0.0	14.3	7
	4～10年	54.5	18.2	9.1	18.2	0.0	0.0	11
	11～20年	29.0	42.0	7.2	13.0	4.3	4.3	69
	全体	32.2	39.1	6.9	13.8	3.4	4.6	87

単位：%　ただし，「総数」は人

庄西でより賛成傾向が強いのは、日常生活でより自家用車に依存していることを反映していよう。この問いに対して「分からない」とした割合は稲畑で16.5%、本庄西で13・8%にとどまった。

3）望ましい町の姿

全般的にみれば、開発傾向に対して積極的支持あるいは容認傾向を示す人々に、町内の望ましい景観に関して優先順位をつけてもらった。一定の空間領域の開発については、すべからく満たされることは稀で、何らかの犠牲を強いられる選択をともなうものだからである。さらにこれからの大野町のあるべき方向についても同様に順位をつけてもらった。ここでは第一位に選択されたものについて示し、検討したい。

表―26・1　町内の景観でもっとも好ましいと思うもの（稲畑）

		水田景観	施設園芸	商業施設	工場景観	そのほか	総数
年代	30歳代まで	62.1	24.1	6.9	0.0	3.4	29
	40歳代	28.0	16.0	32.0	4.0	0.0	25
	50歳代	48.0	28.0	0.0	0.0	0.0	25
	60歳代以上	38.9	33.3	0.0	0.0	0.0	18
仕事	無職	48.3	24.1	3.4	3.4	3.4	29
	自営業	47.4	31.6	10.5	0.0	0.0	19
	パート等	38.2	23.5	17.6	0.0	0.0	34
	恒常的勤務	50.0	25.0	8.3	0.0	0.0	12
夫仕事	自営業	34.6	34.6	7.7	3.8	0.0	26
	パート等	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3
	恒常的勤務	56.9	19.0	13.8	0.0	1.7	58
居住年数	0～3年	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	3
	4～10年	43.2	29.7	13.5	2.7	2.7	37
	11～20年	50.0	21.4	10.7	0.0	0.0	28
	21年～30年	35.7	10.7	7.1	0.0	0.0	28
	30年～	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	3
	全体	45.4	24.7	10.3	1.0	1.0	97

単位：%　　ただし，「総数」は人

表―26・2　町内の景観でもっとも好ましいと思うもの（本庄西）

		水田景観	施設園芸	商業施設	工場景観	そのほか	総数
年代	30歳代まで	16.7	41.7	8.3	0.0	25.0	24
	40歳代	35.9	28.2	10.3	0.0	7.7	39
	50歳代	46.2	15.4	15.4	0.0	7.7	13
	60歳代以上	40.0	26.7	20.0	0.0	0.0	15
仕事	無職	39.3	28.6	10.7	0.0	7.1	28
	自営業	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	6
	パート等	33.3	33.3	14.3	0.0	14.3	42
	恒常的勤務	12.5	37.5	25.0	0.0	12.5	8
夫仕事	自営業	44.4	27.8	16.7	0.0	5.6	18
	パート等	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	7
	恒常的勤務	27.5	37.3	9.8	0.0	17.6	51
居住年	0～3年	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	7
	4～10年	36.4	27.3	27.3	0.0	9.1	11
	11～20年	34.8	33.3	10.1	0.0	13.0	69
	全体	34.5	32.2	12.6	0.0	11.5	87

単位：%　　ただし，「総数」は人

町内の景観で望ましいと思うもの　「商業施設が建ち並ぶ景観」(稲畑10.3%、本庄西12.6%)、「工場の景観」(稲畑1.0%、本庄西0・0%）に対して、農業あるいは農村的景観を示す「水田が広がる景観」(稲畑45.4%、本庄西34.5%)、「施設園芸が行われている景観」(稲畑24.7%、本庄西32.2%）が圧倒的多数を占める結果となった。「水田景観」については、稲畑では本人及び夫が「恒常的勤務」の人々の過半数が望ましいとしており、本庄西では年齢が高い層ほど望ましいとする傾向がある。「水田」と「施設園芸」の割合の差異は、両集落の置かれた環境の差に基づくものと思われる。

これからの大野町のイメージ　「働く人の活気が必要、若い人の働ける場所を町内に増やすべき」(以下、「活気」)と「落ち着いた生活空間を維持したい」(以下、「落ち着き」)がそれぞれの集落で高い割合を示した。ただし、稲畑では

表―27・1　これからの大野町のもっとも望ましい方向について（稲畑）

		にぎやかさが足りない、もっと商業施設があるほうがいい	働く人の活気が必要、若い人の働ける場所を町内に増やすべき	騒がしくなっても生活の便を考えると道路整備は必要	落ち着いた生活空間を維持したい	そのほか	総数
年代	30歳代まで	13.8	24.1	20.7	31.0	6.9	29
	40歳代	16.0	44.0	8.0	16.0	0.0	25
	50歳代	8.0	36.0	0.0	32.0	0.0	25
	60歳代以上	16.7	50.0	0.0	27.8	0.0	18
仕事	無職	10.3	37.9	13.8	27.6	3.4	29
	自営業	21.1	42.1	5.3	21.1	0.0	19
	パート等	14.7	29.4	8.8	26.5	2.9	34
	恒常的勤務	0.0	50.0	0.0	33.3	0.0	12
夫仕事	自営業	15.4	46.2	7.7	15.4	0.0	26
	パート等	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	3
	恒常的勤務	12.1	36.2	10.3	29.3	3.4	58
居住年数	0～3年	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	3
	4～10年	13.5	29.7	13.5	32.4	5.4	37
	11～20年	10.7	46.4	3.6	32.1	0.0	28
	21年～30年	10.7	25.0	3.6	14.3	0.0	28
	30年～	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	3
	全体	13.4	37.1	8.2	26.8	2.1	97

単位：%　　ただし、「総数」は人

表―27・2　これからの大野町のもっとも望ましい方向について（本庄西）

		にぎやかさが足りない、もっと商業施設があるほうがいい	働く人の活気が必要、若い人の働ける場所を町内に増やすべき	騒がしくなっても生活の便を考えると道路整備は必要	落ち着いた生活空間を維持したい	そのほか	総数
年代	30歳代まで	12.5	37.5	12.5	25.0	8.3	24
	40歳代	7.7	33.3	10.3	35.9	0.0	39
	50歳代	15.4	23.1	0.0	53.8	0.0	13
	60歳代以上	20.0	20.0	0.0	46.7	0.0	15
仕事	無職	10.7	28.6	0.0	46.4	0.0	28
	自営業	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	6
	パート等	11.9	38.1	14.3	31.0	4.8	42
	恒常的勤務	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	8
夫仕事	自営業	22.2	22.2	11.1	38.9	0.0	18
	パート等	42.9	0.0	28.6	28.6	0.0	7
	恒常的勤務	5.9	43.1	5.9	39.2	3.9	51
居住年	0～3年	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	7
	4～10年	18.2	36.4	27.3	18.2	0.0	11
	11～20年	8.7	33.3	5.8	44.9	2.9	69
	全体	12.6	32.2	8.0	39.1	2.3	87

単位：%　　ただし、「総数」は人

「活気」が37.1%、「落ち着き」が26.8%であるのに対し、本庄西では「活気」が32.2%、「落ち着き」が39.1%と逆転している。

「活気」については、稲畑では60歳代、本人（妻）が「恒常的勤務」の人で高い割合を示し、本庄西では、本人は「パート等」で夫が「恒常的勤務」の人に高い割合で表れた。一方、「落ち着き」は、稲畑では30歳代と50歳代、比較的居住年数が浅い層に高い割合で表れ、本庄西では年齢層が高い層、本人（妻）が「恒常的勤務」、居住年数が比較的長い層で割合が高かった。就業機会の増加による「活気」と生活環境の「落ち着き」の両者のバランスが町に求められているといえよう。また、今後増大していくであろう層に「落ち着き」を求める傾向が認められる点が注目される。

6．おわりに

1）要約

以上、アンケート調査の結果について述べてきた。本調査の対象者である非農家の主婦像とその農業・農村に対する意識について、大まかにまとめておきたい。

まず、第一に、非農家とはいえ、新しく造成され、農家集団とは異なるコミュニティを形成している本庄西と稲畑では、属性の面でも、意識の面でも違いが多々みられた点である。農家・農業者からみれば、これらは一括して「非農家」として捉えられるが、多様性を持った人々であるという認識が必要である。

例えば、年齢層、本人（妻）及び夫の仕事はもとより、日常生活行動についても、本庄では町域を越えた範域で通勤・買い物をしているのに対し、稲畑では町域が意味をもっていた。

また、非農家とはいえ、様々なかたちで農業、農業者との関係を持った人々であることが確認された。そして程度の差はあるものの日常生活の中に農業、あるいは「農」的営みを取り入れており、そうした生活に満足し、さらに発展させたいという意向も認められた。

こうした農業に対する関係性は、農産品の消費に対する意識とも関連していると推測され、農産物の安全性に対する意識は高かった。しかし、大野町や岐阜県といった地縁的関係性への志向は、施設利用の動向では確認できるものの、高い年齢層や居住年数を経た層でなければ信頼性に結びついていない。全体に、非農家の人々は、潜在的には大野町産の農産物志向を持っているものの、家族や親戚を超えた関係性が深められていないために表面化しないでいることが読みとられた。非農家のみからなる地区である本庄西で、地区活動であるクリーン活動への参加度が高かったのに対し、その他の町の行っている様々な事業・イベントへの参加は積極的ではなかったことにも農家、非農家間の交流に課題があることをうかがわせる。

他方、居住環境を形成する農村空間を成り立たせる農業に対する期待の強さは、調査結果に明瞭に表れた。大野町に転入する際に考慮した点として、価格に次いで居住環境として緑の多い農村的な環境が志向性されていたことも明らかになった。個別に捉えれば、住宅建設、企業立地、商業施設の立地といった動向は、それぞれ望ましいものとされている。特に町の活気を生み出すために就業を確保する企業立地は重視されているが、他のものについては、現在の農村環境を犠牲にしてまで優先されるべきものとは考えられていない。

こうした傾向は、稲畑よりも本庄西でより顕著な傾向がみられる。今後、増加が予想される人々が郊外化、宅地化によって転入する恒常的勤務（夫）の人々であり、自家用車によって町域を超えた生活行動を志向する人々であると推測されるならば、それはどちらかといえば本庄西の非農家に類似した人々といえるであろう。したがって、農村環境を重視する観点は、人口増とともに、益々多くの人々が支持するものとなろう。

2）課題

先に述べたように、本調査は大野町という自治体の下での農業者側からの土地利用計画案、農地整備開発計画に関する資料提示を目的として行われた調査である。その意味では、調査自体は、農村地域社会変動の権力的な枠組みの一環に位置づけられたものといえよう。本調査の結果がさらに具体的な姿となって現れていくまでに、少なくとも次のようなプロセスが必要となってこよう。

まず、第一に、本稿で示された非農家及び今後増加が予想される非農家に受容されている「農村」あるいは「農村環境」についてさらに具体的に明らかにしていく必要がある。本研究の現段階では、ある程度、「自然」と密着したものとして抽象的な「農村」像を選択肢として示し、それを回答者が選択したに過ぎないため、農業者の立場からそれを利用する上での制約はほとんどないと言ってよい。具体的には、非農家が抱いている「農村」像と大野町の景観やイメージとがどのような結びつきをもっているの

か、また、断絶しているのかを現場に即して明らかにしていくアプローチが計画段階では必要であろう。

その上で、町は、開発と農村環境の保全とのバランスのとれた土地整備を行っていくことが求められる。特に新規の住宅地の造成にあたっては、農村的環境の保全について十分な留意が必要である。それと同時に、非農家側に「農」に対する少なからぬ関心が存在することを認識した上で、非農家－農家間の交流を促す施策が求められる。このことは農家側にとっても非農家側にとっても、農村環境を活かした豊かなまちづくりを考える鍵となるとみられる。当町の園芸に関する農業者の知識や技術は非農家にとっても望まれるものであり、さらに、非農家に安心感を与える農産物の提供が実現できれば、町内の農業に対する非農家の理解を深めることができるであろう。そのためには、安全性を重視した農業への転換とその広報が、町と農業者との協力によって実現されることが望ましい。しかし、これらのことは、農業生産にあたる農業者側に対して、非農家側からの一定の制約があたえられることとなろう。

純農村的景観から、郊外的な性格を強めつつある地域で、新たな「田園」景観をつくり出そうとする動きは、本町だけでなく全国でみられる動向である。地域の資源を見つめ直し、特色あるまちづくりを住民の参加によって図ることが求められているが、果たしてそれがどの程度農業者側の利益になり得るか、この点については、農家調査との比較を含めて検討しなければならない。同時にこうした取り組みが自治体の計画に反映され、また、それが実施されていく過程について今後注目していきたい。非農家による「農村」像に基づく農村性が、さらに空間形成に反映されていくプロセスを示す事例となる可能性があると考えられるからである。

参考文献

Pacione, M. ed. (1983)：*Progress in rural geography, Routledge*.（邦訳：石原潤監訳『農村問題と地域計画』古今書院、1992年）。

Bunce, M. (1994)：*The countryside ideal: Anglo－American images of landscape,* Routledge.

高橋　誠（1997）：『近郊農村の地域社会変動』古今書院。

高橋　誠（1998）：「空間としての『農村』から農村空間の社会的表象―農村性の社会的構築に関するノート（1）」、情報文化研究第7号。

高橋　誠（1999）：「ポスト生産主義、農村空間の商品化、農村計画―農村性の社会的構築に関するノート（2）、情報文化研究第9号。